

大阪府保育士会だより



ほほえみ

平成 25 年 12 月 1 日
第 95 号

大阪府社会福祉協議会
保育部会・保育士会
大阪市中央区中寺 1-1-54
TEL 06-6762-9001

「保育士の専門性を高める連続研修会(園長・リーダー・主任保育士研修会)」が8月9日(第2日目)と同19日(第3日目)、大阪府社会福祉会館などで開かれました。テーマ「講師、主な内容は次の通り。(第1日目は94号に掲載)

〔第2日目・第1部〕
テーマ「これからの保育」

講師・新宿せいがの森保育園、藤森平司園長

「子どもの主体的な活動を促す環境」「子どもの自発的な活動としての遊びを保障する環境」「子ども一人一人の特性に応じた環境」をどのように創造し、人との関わりをどう作り、子ども集団の中で行われる「協同的な学び」をいかに実現するかが目指すべき目標になります。

その中での重点項目を考え、決めることが園長の役目ではないか。

異年齢保育では、ドイツ(バイエルン)の異年齢保育の長所を紹介しましょう。長所としては①年少児は年長児から刺激をうける②年長児は年少児に教えてあげることで自分の能力を定着させる③小さい子のお手本となることで自信をつけ

る。乳幼児期の人との関わりの大切さを念頭に、日々の保育をしていかなければなりません。

「目指す重点目標を考え、決めるのが園長の役割」
講師 藤森氏

障がい児への理解深め、適切な対応を実践——辻井氏

「目指す重点目標を考え、決めるのが園長の役割」
講師 藤森氏

障がい児への理解深め、適切な対応を実践——辻井氏

保育士の専門性を高める連続研修会

事故防止へリスクマネジメント委員会を設置——関川氏
連続したつながりのある指導計画を立てよう——大方氏

〔第2部〕

テーマ「発達障がい児を保育に受け入れる」講師・NPO 法人国際臨床保育研究所、辻井正所長

小学校に入学した子どもの20〜30%が「落ちついて座れない」「先生の話が聞こえていないのに聞こえている」「些細なことでもけんかをする」といった状態にあります。

さらに、運筆の不器用さや読む能力の低下の問題も学校現場で指摘されています。保育園で配慮を必要とする子どもが、小学校入学後も様々な問題を抱えています。また、日常の保育の中で注意することを文書化し、マニュアルにしておくことや気づいたことを話し合う場として、リスクマネジメント委員会を立ち上げることも大切だと。また、日常の保育の中で注意することを文書化し、マニュアルにしておくことや気づいたことを話し合う場として、リスクマネジメント委員会を立ち上げることも大切だと。

「第3日目・第1部」
テーマ「保育リスクマネジメント」講師・大阪府立大学、関川芳孝教授
たとえ自園での事故の経験がなくても、「自園は大丈夫」と考えず、他園の事故の失敗を学ぶ考えを持ち、事故発生時には必ず記録をとることが大切です。



3日間でのべ378名が参加

〔第2部〕
テーマ「記録から指導計画へ」大阪総合保育大学、大方美香教授

無意識から意識化した保育を行うことが重要。子ども一人ひとりの様子を意識するために記録をとるといふ考えが必要です。意識して万遍なく子どもを観察しましょう。子どもの良いところを探しながら、子どもの今の姿に沿った保育を考えることが大切です。

子ども遊びを的確に評価するには、連続したつながりのある指導計画を立てなければなりません。

週ごとにリーダーが変わる保育では、1週目と4週目の保育はつながりにくいのが現状です。そこで、リーダー以外の人が記録をとり、フィードバックしながら次の週につなぐことで連続したつながりのある指導計画を立てることが出来ます。それは実践に活かせる保育の記録となり、遊びの段階と子どもの姿がよく見えてきます。

(和泉市 M・Y)

子育て支援シリーズ 37

自発性など身につくモンテッソーリ教育の無料体験—2、3歳児対象

0～6歳児向けセミナー参加者には「子育てハガキ」でアドバイス—ちとせ保育園

ちとせ保育園（茨木市）の子育て支援事業は、家庭でできるモンテッソーリ教育を体験させてもらえるのが特徴です。

モンテッソーリ教育とは、子どもの人格を尊重、よく観察し、適切な時期に適切な環境を整え、それを通して幼い心が自己を育てようとする力を援助する教育です。強い意志力、集中力、自発性、科学性を身につけ、平和を愛し、互いに助けあうことで人格を形成することを目的としています。

同保育園では週1回、2



自立した子どもを育てる

～3歳の子どもを対象にモンテッソーリ教育の無料体験保育を実施。また0～6歳の子どもを対象に年間を通してセミナーを開き、学期ごとにチームに分け、日常生活の練習や教育が行われています。

セミナー参加の保護者には育児についてアンケート。育児の相談ごとを書く欄が設けられ、それに対し「家庭で子どもとどのように接したらいいか」「こういうケースの場合はこうしたらいいい」などとアドバイス。また、セミナーに参加すると「子育てハガキ」が毎月無料で園から送られてきます。「子育てハガキ」には、子どもの月齢に合わせた育児情報はもちろん、「なぜそうすることが、子どもにとってよいのか」「そうすることで子どもはこう成長する」といった内容が盛り込まれ

ています。

お母さん方の悩みに園長先生自ら質疑応答形式でアドバイス。「ハガキが来たのをきっかけに、子どもと向き合えるようになった」「ちょっとした言葉がけで気持ちが高ぶるようになった」などの声が多数寄せられているようです。

保育園がこのような支援を行うことは、身近に相談する人がなく子育て不安のお母さんにとっては、悩み解消につながり、自信が持てるようになるのではないかと感じられました。

（箕面市 Y・A）

「子どもが豊かに育つ保育の実現」笑顔×未来×自然「生きる力」をメッセージに、第47回全国保育士会研究大会が11月7、8の両日、岩手県盛岡市の盛岡市民文化ホールで開催されま

した。

初日の行政説明では、厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課・幼保連携推進室長の南新平氏が①子ども・子育て支援新制度②幼稚園教諭免許状を有する者の保育士資格取得特例③待機児童解消加速化プランの3点について説明。2日目は10の分科会が開かれ、うち開催地企画の分科会では、東日本大震災で甚大な被害を受けた沿岸地域、陸前高田市を視察しました。

分科会（開催地企画）

陸前高田市の竹駒保育園を視察。震災のその日、大きな揺れの恐怖とともに、ライフラインが寸断され、携帯電話も全くつながらない状況だったそうです。防災無線は「6メートルの津波がきます」のあと途絶え、全く情報が届かない状況。現地の話から、情報が伝わっていないことの不安が伝わってきました。

竹駒保育園では、川を逆流した津波が1メートル50センチの高さで押し寄せ、施設が半壊しました。しか

子どもたちへの支援と共に大震災を語り継ぐ—陸前高田市の保育園視察

全国保育士会研究大会開催地(岩手県)分科会

陸前高田市「奇跡の一本松」



小中学校の校庭には今も仮設住宅があり、高台への移住にも山を切り崩して土地を造成することから始めねばならない現状を見ると、「復興」にはまだまだ時間がかかります。息の長い支援とともに、この大震災を忘れることなく子どもたちにも語り継がねばならないと強く思い知らされました。

記念講演（初日）

被災地の子どもたちへ 23万冊の絵本届く

すえもりブックス元社長 末盛千枝子氏が講演。移住先の岩手県八幡平で震災に遭った末盛氏は「一冊の本が誰かの力になる」という強い思いから、被災地の子どもたちに絵本を送り続ける『3・11絵本プロジェクト岩手』を立ち上げられました。

全国から23万冊の絵本が届けられ、子どもたちがたくさん絵本の中からお気に入りの絵本を一生懸命探し出す姿や大切にしている本について、エピソードを交え紹介されました。

（東大阪市 S・H）

気を遣った子どもの衛生管理

大きな災害の時には地域の病院も被災し機能を失っていることがあります。

ライフラインのほかに失われるのは、今の医療体制でもあるのです。昔の状態になるといことです。薬や医師が少なかったころ、不潔な状態は命に関わることだったので、子どもを持つ親は衛生管理の行き届かない中で「生ものはたばさせない」「生水はのませない」と安全策をとってきたのです。

そのままとるからです。

もともとレベルの高い清潔度の国が被災すると、普段では考えられない不潔な状態になって、ついついいつもの行動をとり大きなダメージを受けます。不潔の体験がないため、最低限の知識として不潔さを避ける方法を知っておくことが大切です。

昔は水道でも生水を飲んではいけないと、飲用水は一度煮沸し、番茶や煎り麦を入れ安心して飲める水にしました。

3原則①

「菌をつけない」

食のトラブルを防ぐ原則

日本ほど日常の暮らしが清潔になった国はないでしょう。水道の水は絶対安全が保証され、トイレもほとんどが清潔な環境になっています。

しかし一歩日本を出ると、水道から出る水自体が濁っていたり、飲用ができない国もあります。日本人が清潔さに欠ける国でお腹をこわすのは、弱いだけではない、清潔な日本での行動を

つづけます。手に菌が付いて

いても、ふだんなら手洗いでもできますが、水のないところでは洗うこともままありません。

基本的には「素手」で食品に触れないこと。そのためにはラップやポリ袋などを活用して手と食品の間を紙一重で触れないようにするのがです。特に、災害時にはおにぎりなどの救援物資を出す側になることもあるでしょう。そんな時も決して

「食べることから防災を考える」③

サカモトキッチンスタジオ主宰 坂本 廣子

学びシリーズ 26

食中毒防止3原則を守るためにおススメ
素手で触らず、紙一重調理、
安全に繋がる台所小物を備蓄し活用
基本は加熱、リフトフォーム料理も

「菌をつけない」
食のトラブルを防ぐ原則
があります。見えない菌と戦うためにどうするか。昔から言われている食中毒防止3原則を守ることです。ばい菌を「つけない」「ふやさない」「やっつける」です。ライフラインが途絶えた中で実際にどうするか考えてみましょう。

3原則②

「菌をふやさない」

まず、菌をつけないためには、最も菌が付きやすい手で直接触らないよう気を付けます。手に菌が付いて

菜ばしなど、料理には道具を使うので、それを洗う水が必要ですが、しかし、水のないところで繰り返し使うと菌の移染源になります。特にまな板は清潔に保つのが難しく、基本的にはまな板を使わずに調理することを考えます。

洗い物なしで調理ができる紙一重調理が防災料理としておススメです。防災用品としてポリ袋やラップ、アルミホイル、キッチンペーパーなど台所にある消耗品が清潔に料理をする大きな役割を果たしてくれますので、さらさないこと、ちょっと多めに備蓄しておくことをお勧めします。

3原則③

「菌をやっつける」

最後は菌を「やっつける」ですが、基本は加熱する、消毒するということです。おにぎりにしる配給された食べ物も、どのような

状態に届いたかについてはちょっと不安があります。衛生状態のよくないところで作られた食品は、菌が繁殖していることもあるからです。安全かもしれないけれど、念のため電子レンジにかける、または何らかの方法で加熱してからが安心して食べられます。

リフォーム料理
【パラパラチャーハンの作り方】

- おにぎりをポリ袋に
- 生卵を加え揉みほぐすと冷たい卵かけご飯状態に
- フライパンに絞出し炒めると出来上がり
- 味付けの鯖の味噌煮を加え混ぜると栄養もたっぷり

最後にキッチンガードンの葱をキッチン挟みで切っに入れていいですね。再加熱には電子レンジ、被災当初はカセットコンロ、電気が戻ってきたら100VのポータブルIHがずっと使える加熱器として菌から身体を守ってくれます。

地域とともに
ふれあい大切に

水やりや雑草抜き、
道路の環境美化活動に積極参加

龍華保育園

龍華保育園（八尾市）では「YAO アドプト環境美化活動」に参加し、美化活動に積極的に取り組まれています。

この活動は「私たちが身近に利用する道路を自分たちの子どものように育てていく」というコンセプトのもと、道路の清掃・緑化など継続的に実施しているものです。

同園前の緑化歩道は、安全で円滑な歩道動線を確認するために整備・開通したものです。園が水道栓の鍵を預かり、水やりを行う時はまずその鍵を取り出し、



道路ピカピカ、緑いっぱい

立地に恵まれているのも同園の特色。周辺に消防署や交番、郵便局、グループホームなどがあり交流が活発。子どもたちは例年、勤労感謝の日に向け作品を制作し、近くのケーキ屋さん

じょうろを持って準備OK。子どもたちは張り切って緑化歩道に繰り出します。じょうろに水を汲み水やりするほか、雑草を引き抜きます。草木の間から虫が飛び出したりすると、子どもたちはびっくりするやら大騒ぎ。そんな体験を楽しみながら自然にふれるよい機会にもなっています。

清掃中に、通りがかりの地域の方から「ありがたう」と声をかけてもらえるのがうれしく、子どもたちの活動にもいっそう身が入るようです。近隣の方と自然に挨拶を交わすようにもなり、地域との関わりが増えていきます。

お泊まりの日は、まず7〜8人のグループに分かれ、近くのスーパーに翌日の朝食の食材を仕入れに出かけます。パンやレタス、ソーセージなど買い物リストとにらめっこして楽しい材料選

び。もっとも、お値段の精算も自分たちでやるので、みんなで相談したり、店の人に尋ねたりと真剣そのもの。引率の保育士は何の指示も出さないからです。朝食は厨房職員がサラダやコーンスープ、ソーセージ、果物などを調理し、バイキング形式に盛り付けられます。その後、子どもたちが夕

「保育の工夫―現場を訪ねて―」

多様な体験で
「生きる力」育てる
―5歳年長組お泊まり保育
北野田保育園



みんなで体験キャンプファイヤー

に持ち込みます。その作品は1年間、店内に飾ってもらえるのです。道路を隔てて中学校がありますが、入園当初の乳児クラスの散歩コースになっています。中学生のクラブ活動の様子を見に行ったり、体育祭の練習を見学し当日、

応援にも行きます。広いグラウンドを借りて元気一杯かけっこをしていると、教室から生徒が「頑張れ！」と声援を送ってくれることもあります。最近では地域との関わりが薄くなっているといわれますが、龍華保育園の子ども

たちは日ごろから多彩な世代のみなさんと関わり合い、心も身体も大きく成長してほしいものです。（八尾市 K・N）

北野田保育園（堺市）では、5歳児年長組になると、1泊2日のお泊まり保育を実施されています。お泊まりの日は、まず7〜8人のグループに分かれ、近くのスーパーに翌日の朝食の食材を仕入れに出かけます。パンやレタス、ソーセージなど買い物リストとにらめっこして楽しい材料選

び。もっとも、お値段の精算も自分たちでやるので、みんなで相談したり、店の人に尋ねたりと真剣そのもの。引率の保育士は何の指示も出さないからです。朝食は厨房職員がサラダやコーンスープ、ソーセージ、果物などを調理し、バイキング形式に盛り付けられます。その後、子どもたちが夕

キャンプファイヤーの準備もお泊まりの仕事です。のこぎりで木材を切り、交互に組んで積み上げ、夜がくると火をつけます。闇のなかに、火の神を呼びこんだような神秘的な炎が燃え上がると、子どもたちの表情も輝いて見えます。入浴は芝生に設けられたプールにお湯を張り「きただの温泉」の完成。保育士に身体や頭を洗ってもらい、お湯のかけ合いっこも。子どもたちの歓声が夜空に響き、思い出深い「露天風呂」となります。

園内でのウォークラリーでは、異年齢児と交流する場が設けられています。各年齢に応じたふれあい、頬に触れる・抱く・一緒に踊る―といったなかで、年少者へのいたわりの気持ちを育て、刺激を与え、人を大切に思う心を経験させるのがねらいです。玉葱の皮むきに涙を流し、キャンプファイヤーでは木の匂いや感触を味わい、けむりが目にしみたりと実体験がいっぱい。これらの貴重な経験が運動会や生活発表会などの行事に力を発揮し、「生きる力」や団結力が育まれるのです。（堺市 H・K）

編集後記

日々の保育に追われ、気がつけばもう師走。紅葉狩りをする前にコートを羽織る候となりました。保育士会の研修に多数のご参加をいただき、各園のご協力に感謝します。良い研修会を開催できるように企画して参りますので、ぜひご意見を。来年は世界にとっても、保育現場にとっても良い年でありませうに。また各園の子どもたちと皆様が健康であり、保育士会でお会いできることを祈念します。